

令和6年沼津市教育委員会 第10回定例会会議録

1 日 時 令和6年10月24日(木)
午後3時00分～午後4時43分

2 場 所 沼津市立図書館 4階 講座室

3 日 程

(1) 開会

(2) 会議録署名人の指名(佐藤委員 川口委員)

(3) 教育長職務代理者の指名

(4) 教育長報告

(5) 議案

議第19号 市立大平こども園の設置及び教育課程に関する基本的事項の策定に対する教育委員会の意見について

(6) 協議事項

(7) 報告事項

報告事項1 令和6年9月市議会定例会一般質問等について

報告事項2 学校規模・学校配置の適正化の取組について

報告事項3 教育基本構想実施計画の取組の状況について

報告事項4 第41回沼津市山口源新人賞の決定について

(8) その他

(9) 報告事項

報告事項5 交通事犯に係る指導措置について

報告事項6 令和6年度全国学力・学習状況調査について

4 出席者等

教育長 奥村篤、教育長職務代理者 佐藤清子、委員 土屋葉子、委員 川口浩史、委員 重光純、教育次長 金子昭人、教育指導監兼学校教育課長 山崎巖、教育企画課長 原将史、学校管理課長 齋藤忠興、教職員研修センター所長 長島須美子、こども未来創造課長 山岡祥子、文化振興課長 藤井貴弘、学校管理課長補佐 横山憲利、こども未来創造課長補佐 渡邊尚志、歴史民俗資料館主幹 鶴田晴徳、明治史料館主査 木口亮、文化振興課副主任 齋藤和輝、教職員研修センター指導主事 大友未来、調整担当・教育企画課長補佐 内村一徳、教育企画課指導主事 内村宗靖、教育企画課指導主事 勝間田幸江、教育企画課主任 岩崎雄、教育企画課事務補助員 後藤恵

5 会議内容

(1) 開会

奥村教育長が午後3時00分開会を宣言する。

奥村教育長 10月も残り1週間となった。だんだんと秋めいてきたが、本日の三島市の最高気温は29℃であった。10月下旬とはいえまだ夏日のようで、今朝も通勤のバスを降りてすぐに蒸し暑く感じ、思わず扇子で仰いだ。引き続き熱中症対策に努めたい。

先日9月市議会が閉会したが、最終日の10月15日には、本会議場が28℃を上回ったため、エアコンをかけながら白熱した討論を続け、終了時刻は19時近くになっていた。

本市にとって、歴史的で貴重な財産である高尾山古墳が、この度国史跡に指定された。本市には多くの文化財があるが、東日本最古級かつ古墳時代初期においては最大級の前方後方墳である高尾山古墳は、6月24日に国の文化審議会から指定史跡に相応しい遺跡として文部科学大臣に答申され、10月11日に官報告示を経て正式に国指定史跡となった。本市においては、昭和54年の休場遺跡、昭和63年の長浜城跡、平成6年の興国寺城跡に続く30年ぶり4件目の国指定史跡となる。東日本最古級の高尾山古墳が加わったことは、大変喜ばしく光栄なことと思う。教育委員会では次世代にも歴史、文化遺産の価値を伝えていくことを重要な責務と考えている。今後、この古墳を見てその大きさ等を体感し、当時の情景を思い描けるような整備を進めていきたいと考えている。子供たちにも、これまで以上に高尾山古墳に興味を持ってもらえればと思う。今回の国指定史跡をきっかけに、沼津市の歴史的文化財への関心、郷土への愛着と誇りがこれまで以上に深まることを願っている。

本日は、昨年に引き続き、教育委員会定例会の研修参加者として、歴史民俗資料館、明治史料館から学芸員の方々がそれぞれ参加しているため、御承知おき願う。

(2) 会議録署名人の指名

奥村教育長より、会議録署名人に佐藤委員、川口委員を指名する。

奥村教育長より、本日の会議は一部非公開とすることを委員に諮り、了承される。

傍聴人 1人

奥村教育長より、重光純委員が9月市議会定例会において沼津市教育委員として任命の同意の議決があったことについて報告する。

奥村教育長 重光委員には、令和10年10月までの任期を務めていただく。よろしくお願ひしたい。改めて、重光委員から一言御挨拶をお願ひする。

重光委員 この度、第3期目として選任された。これまでの8年はあっという間であった。色々な問題があるが、4年間、またどうぞよろしくお願ひする。

奥村教育長 重光委員の力に期待している。よろしくお願ひしたい。

(3) 教育長職務代理者の指名

奥村教育長より、教育長職務代理者について、10月24日付けで、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第13条第2項に基づき、新たな教育長職務代理者として佐藤委員を指名する。

(4) 教育長報告

奥村教育長 10月2日、第51回沼津市芸術祭の開会式に参加させていただいた。今年は沼津市制101年という沼津市にとって「次の100年」への大事な一歩となる。芸術祭も第51回ということから、「次の50年」に向けての大事な一歩となるよう、願いを込めて開会式でのテープカットを行った。その後、書道展を見学したが、大変素晴らしい作品から作者の思いが伝わってきて、芸術の秋を思う存分に味わうことがで

きた。11月17日にプラサヴェルデで行われる閉会式までの間は、毎週末を中心に各種イベントや発表会が行われるため、時間の許す限り教育委員の皆様にも足を運んでいただければと思う。明後日26日には、生涯学習課主催の特別講座にて、「てい先生」がお見えになる予定である。翌日27日には、郷土ふれあい太鼓、邦楽祭も行われるので、ぜひお越しいただきたいと思う。

10月6日には、愛鷹広域公園で行われた「子どもの遊び王国in沼津」の開会式に出席してきた。佐藤委員も所属されているボーイスカウトの皆さんにも、毎年このイベントを盛り上げていただいている。当日は天気が少し心配であったが、子供たちを中心とした多くの人々の思いが届いて、お昼頃からはとてもいい天気となった。今年は前年の約4,200人を大きく上回る約5,600人の来場者で大盛況であったと聞いている。

その後、千本港町公園において、沼津縁の詩人・作曲家である勝田香月先生、本居長世先生を顕彰する碑前祭に出席させていただいた。多くの方々が石碑の前に集まる中、高校生による気持ちの込められた朗読、奥ゆかしいダンス、爽やかで力強い和太鼓の演奏等が行われた。その光景を見て、沼津を愛されたお二人の先生の思いを、改めて若い世代の方々が受け継いで、私たちにも文化芸術を愛する心が育まれる機会をいただいていることを感じた。来場者からは終始温かい拍手が送られていた。

最後に、市民文化センターにおいて行われる、沼津市芸術祭合唱祭に参加した。この合唱祭での発表を目標に、日頃より練習を積み重ねてきた多くの団体からは、合唱を通して元気、感動を伝えていただき、大いに盛り上げていただいた。途中、観客も含めて沼津市歌を合唱する場面もあり、私も文化振興課長と共に歌わせていただき、大変楽しい時間を過ごさせていただいた。

その他出席行事については一覧のとおりとなっているため、御覧いただきたい。

<議案>

奥村教育長 日程（5）議案である。

議第19号 市立大平こども園の設置及び教育課程に関する基本的事項の策定に対する教育委員会の意見について

<市立大平こども園の設置及び教育課程に関する基本的事項の策定に対し、地方教育行政の組織及び運営に関する法律及び、沼津市が設置する幼保連携型認定こども園に関する教育委員会の意見を聴取すべき事務を定める規則の規定に基づき、沼津市長から教育委員会の意見を求められたので、審議を求める。教育委員会としての意見は、異議はないものとする。>

(教育企画課長 資料に基づき説明)

奥村教育長 説明が終わった。以前、戸田幼稚園が認定こども園化する際にも、同様の意見聴取があった。設置に係る経緯とその理由、目指すべきグランドデザイン等も案として示されていたが、御質問や御意見等あればお願いしたい。

川口委員 大平幼稚園と大平保育所の詳細をよく知らないが、園舎は同じ敷地内にあるのか。それとも分かれているのか。また、全国的に少子化が進む中、大平地区も例外ではないと思うが、現在のそれぞれの利用状況を教えていただきたい。

- こども未来創造課長 園舎はそれぞれ別々の場所にある。大平幼稚園は大平小学校と隣接している。大平保育所は、そこから500mほど離れた場所にある。市立大平こども園では、現在の大平幼稚園を幼児部、大平保育園を乳児部として開園する予定である。利用状況としては、現在大平幼稚園には13人、大平保育所には39人在籍している。おっしゃるとおり、大平地区の未就学児（0～5歳児）の人数は、令和元年度には120人であったが、令和6年度には79人に減少している。
- 奥村教育長 園児の数は減少が進んでいる。
- 川口委員 どちらか一方ではなく、両方の園舎を使うということがわかった。
- 奥村教育長 ほかにいかがか。
- 佐藤委員 資料にある日課表を見て、朝の7時～夕方の18時までやっていることに驚いた。全ての先生方がその時間帯にいるのではないと思うが、シフトを組んでいくということか。
- こども未来創造課長 おっしゃるとおり、現在の大平保育所ではシフトを組んでいる。もともと18時までであるが、市内のほかの保育所では19時までの場合もある。そうした場合、2部交代や3部交代で職員が入れ替わることもある。
- 佐藤委員 先生方が全員いらっしゃる時間帯も存在するのか。
- こども未来創造課長 保育所は土曜日でも開園しているため、週休2日となると休みの日もそれぞれとなる。全員そろう日というのは、実はない。
- 奥村教育長 ほかにいかがか。
- 土屋委員 資料を見落としているかもしれないが、質問する。私立保育園と同様に、大平こども園でも0歳児から預かることになるのか。
- こども未来創造課長 大平保育所では0歳児からとなっているため、同様に、大平こども園乳児部においても0～2歳児の乳児をお預かりする予定である。
- 奥村教育長 ほかにいかがか。
- 教育企画課長 先ほど川口委員より園舎が離れていることについての話があったが、それに関連して、お伝えする。大平地区の学校規模・学校配置の適正化において、大平幼稚園が大平小学校と隣接していること、適正化の考え方として複合施設化することも考えられること、地域の方々には今回の認定こども園化の話が十分に周知されていること等を踏まえて、施設の老朽化についても視野に入れながら地域の方々とも議論を進めていくこととなっている。
- 奥村教育長 大平地区においては、何年も前から、夏休み等の期間を利用して、幼稚園・保育園・小学校・中学校の先生方が一堂に会して研修会をしている歴史もある。資料中のグランドデザイン案を見ると、静岡県や沼津市も現在力を入れている「幼保小連携」に基づき、系統的に育てたい力について書かれている。特に重点目標にある、考え工夫する力（思考力・判断力・表現力）、やる気と興味をもって取り組む力（非認知能力）を幼少期から培うことで、様々な課題に立ち向かっていったり、思いやりを持って、他人と協力して問題を解決していこうとする姿勢を持ったりすることにつながる。今回のこども園化をとおして、大平地区のより一層の連携された教育が充実していくとよいと思う。御意見も尽きたようなのでお諮りする。議第19号 市立大平こども園の設置及び教育課程に関する基本的事項の策定に対する教育委員会の意見について、原案のとおり可決するというところでよいか。
- 各委員 異議なし。

奥村教育長 異議なしと認める。議第19号について、原案のとおり決する。

<協 議>

奥村教育長 日程（6）協議事項は、本日は案件なし。

<報 告>

奥村教育長 日程（7）報告事項である。

報告事項1 令和6年9月市議会定例会一般質問等について

<本会議で行われた一般質問について報告する。3人の議員から、人間力を磨く教育に資する教育環境について、市立中学校における部活動について、不登校児童への対応について等の質問があり、市長、教育長及び教育次長が答弁を行った。>

(教育次長 資料に基づき説明)

奥村教育長 説明が終わった。学校規模・学校配置の適正化、GIGAスクール、部活動の地域移行、不登校児童対応といった喫緊の教育課題についての今後の展望ということで、それぞれの議員から説明があった。御意見、御質問等いかがか。

川口委員 不登校児童について。先ほど大平地区の話の中で、幼保小中の連携についてあったが、いわゆる小1プロブレム等の問題を解消していくための市内の取組を伺いたい。

学校教育課長 本年度も、沼津市幼保小連携合同研修会を開催し、市内関係教員が教育会館に集まった。幼保小連携のスタートカリキュラムというプログラムに沿って、小学校入学までに育てほしい姿について共通理解を図ったり、幼稚園と小学校でそれぞれ連携したい内容についての話し合いをしたりと、双方が本音で話し合える場となった。このような研修会や協議会を今後ますます進展させていきたい。

奥村教育長 御存知のとおり、特別な支援を必要とする子供の数は、年々増加している。保護者から見た子供の幼少期の状況は、性格上の問題なのか、発達に課題があるのか、その見極めが難しいと聞く。沼津市が県の指定を受けた研修会の中では、幼少期にどういった手立てをとり、小学校につなげたらよいかといった研究がされているところである。現在は、愛着形成に課題が見られ、特異な行動に出る子供も増えており、以前は中学校に多かった不登校傾向が小学校低学年に多く出てきている。不登校の原因は複雑化しており、特定するのは難しい。そのため、先ほど申し上げた「非認知能力」を幼少期から培っていくことが重要となると考えている。

教育企画課長 本市ではほかにも、幼稚園・保育園と小学校の日常的な連携が可能となるよう、ネット上で情報共有ができるようアカウントを付与している。県においても、小学校に入学する際の引継書類を統一できるよう調整しているところである。そうした中で、沼津市内の全ての幼保小の連携が進められるよう、関係者間で協議している。

教職員研修センター所長 例えば今の時期だと、小学校で就学児健康診断が行われる。その際に、小学校

の教員側から見て幼児の気になる点があれば、幼稚園・保育園と連携をとるようになっている。そうした点から見ても、幼保小の連携はすでに始まっていると考える。

奥村教育長 ほかにいかがか。なければ、本件については報告を受けたということで御了承願う。

報告事項2 学校規模・学校配置の適正化に係る取組について

＜・浮島中学校区では、9月19日に地域住民説明会を開催し、学校規模・学校配置の適正化の基本的な考え方や、全5回の「学校の未来を考える会」での協議内容、8月7日に提出された報告書の内容について説明した。地域住民説明会の後には保護者意識調査を行った。11月の教育委員会定例会では、方針決定の議案上程を予定している。

- ・第二中学校区では、9月27日開催の第6回「学校の未来を考える会」で、これまで議論した意見を作業部会でとりまとめた報告案をもとに、最終の意見交換を行った。会議では多様な意見が出る中、全会一致での議論のまとめには至らなかったため、全委員から意見を聴取した内容の列記を会のまとめとし、第6回までの全資料を付帯したものを教育委員会へ報告することとなった。10月下旬から11月中旬にかけて、第二中学校区及び第一中学校区での地域住民・保護者説明会を開催し、その後、保護者意識調査を予定している。
- ・大平中学校区では、第3回会議を台風による悪天候のため延期し、9月10日に開催した。第2回会議までの中で意見が出されなかった他の中学校区の学校との統合について、グループワークによる意見交換を行った。第4回会議は12月から翌1月にかけて開催を予定している。＞

(教育企画課長 資料に基づき説明)

奥村教育長 報告が終わった。3校区それぞれ個別具体的に説明があった。先日、教育委員の皆様にも浮島中学校区の視察、第二中学校区学校の未来を考える会に御参加いただいた。そのことも踏まえて、御意見、御質問等はいかがか。

土屋委員 浮島地区は古くから住まわれている住民の方が多く、地域愛や自分たちが卒業した母校への深い愛情を持っている印象を受けた。現時点で地域の方々の学校教育への協力や連携の強さもあり、他校区と一緒にすることがあまり望ましくないような環境にあるため、学級数は1クラスずつではあるものの、多くの人が望んでいる小中一貫校となる話を早く進めてほしいと思う。

奥村教育長 おっしゃるように、長く地域に住まれ、3世帯同居の御家族も多い地域柄である。地域の方々が皆で学校を支えていこうという雰囲気を感じとれた。私も校長として在籍したことがあり、地域の皆様にも大変お世話になった。

川口委員 自分の親族もかつて勤めていたことがある。例えば、全員で同じデザインのパロシャツをそろえているなど、先日の視察からも至る所から愛情を感じられた。また、実際に中学校の教員が小学校で授業をしているのを見させてもらったが、すでに小中学校間の連携がよくとれている印象であった。沼津市小中学生科学研究奨励賞の受賞に浮島小学校の児童が含まれていたが、その研究内容は「ナヨナヨワスレナグサ」を地域に残そうといった内容であったと記憶している。子供たちも地域に誇りを持っており、地域住民の方もまた学校に対する尊敬の

姿勢を持ってきているような感じが伝わってきて、地域の力と学校の努力・工夫が合わさっているようなイメージであった。

奥村教育長 地域で奉仕活動を行うと、子供たちの数の2倍以上の人数が集まってきていた。3世帯で地域に協力しているようなイメージである。そうした面からも、ほかの地域というよりは、地域の中で1つの学校をといた方向に固まっていったのではないか。

佐藤委員 浮島小学校の保護者の方と雑談をした際に、「〇〇小学校と一緒にするという話がある」と聞いたこともないような話が挙がってきて、情報が錯そうしていたのだと感じた。校区の地図を見させてもらおうと、根方街道沿いの東西に長い形状で、他校区との統合は距離的にもかなり無理があると思うし、浮島校区のみでまとまった方がよいと感じた。地域の方々も含めてアットホームな印象を受けたが、もちろん、浮島中学校区だけではなく、他校区においても地域の方々の学校への愛情は同じように深いことと思う。

別件で質問する。大平中学校区の学校の未来を考える会で「他校区の学校との統合について意見交換を行った」とあるが、大平中学校区は周囲の校区と距離的にもかなり離れていると思うが、どういう意見交換であったのか。

教育企画課長 浮島中学校区の学校の未来においても、近隣の学校との統合も例示をしながら話し合いを行ったので、具体的な学校名が挙がっていたのかと思われるが、会の中では、例示した校区と浮島中学校区との規模も大きく異なり、現在の校区で培われてきた良さが失われてしまうのではといった意見が多くあった。大平中学校区においても、同様に、一つの選択肢として他校区との統合を例示しながら話し合いを行った。具体的に挙げると、小学校であれば香貫小学校、中学校であれば第三中学校といった例示となる。これに対して、統合によって多様な考えに触れられるといった意見もあれば、浮島中学校区と同様に、校区の良さが失われてしまうといった意見もあった。まだ議論の途中であるため、今後ともさらに深めていきたい。

奥村教育長 どの中学校区においても他校区との統合は選択肢の一つとして例示しながら議論を進めている。

佐藤委員 小規模校に通っていても、不登校となってしまったという話も聞いている。個人で勉強していると、学力の向上は見込めたとしても、自分の意見を発表して、他人の意見を受容するという機会がない。そうしたコミュニケーションという視点から捉えると、一定数の人数が集まっている環境で学習することが望ましいのではないかと思う。

奥村教育長 やはり対面の大切さはあると思う。

学校教育課長 文部科学省からの次期学習指導要領にも、「協働的な学び・対話・体験」というのが、大事なキーワードとして出てくるのではと予想される。他人の意見も受け入れながら、自分を見つめ直し、改めて気付くことは大切である。しかしながら、子供によっては、他人と関わりたくないという場合や1人で過ごす方がいいという場合もある。どうしても、不登校＝いじめというイメージがマスコミからも影響されているが、実際のところ不登校の要因の特定は難しく、中でもいじめが原因となるのは全体の2割ほどである。それ以外の背景に目を向けて、両面的に考えていくことも必要だと思う。

教職員研修センター所長 その子の個性を生かした学び方の場所選びが大切である。今話題にもなってい

るが、個性を伸ばす可能性について沼津市も色々考えていかなければならないと思う。

重光委員

私はスケジュールの関係で浮島中学校区の視察に行けなかったが、第二中学校の未来を考える会は2回傍聴した。議論をまとめる議長に感心し、集約するのは大変なことだとも思ったが、委員の皆様の話もわからなくないと思った。学校の統合は良いこともあればそうではないこともあるので、何を重視していくかが大事であると思う。どの案になったとしても、間違いではないし、同時に正解でもない。どこかで折り合いをつけていくしかないと思う。例えば、人間関係が原因で不登校となってしまった子供の場合、クラス替えがあることは、本人にとっても親にとっても希望であると思う。しかし、大人数の中で浮いてしまうのが怖いといった場合には、少人数の方が自分の居場所が確保されるという感覚もあると思う。どのような規模であったとしても、プラスに考えようと思えばプラスに、マイナスに考えようと思えばマイナスに捉えられてしまう。沼津市ではないが、私も知らない間に母校がなくなってしまい、寂しい気持ちがあったので、自分の地域から学校がなくなってしまうことへの抵抗はわからなくもない。その中で、17人の地域の委員のうち、15人の連署の意見書が出されてもなお、「第一中・第二中の統合の案も残してほしい」とおっしゃったのは大変勇気の要ることだと思った。どの案になるとしても、今後様々な不満や意見が出るのが予想されるが、しかるべき期限には教育委員会が方針を決めて、良い結論が出れば良いと思う。

教育企画課長

今後の流れとしては、まず、地域住民説明会を行う。その上で、保護者への意識調査を行う予定である。考える会を進める中でも、最も重視すべきは子供の利益であり保護者の意見であるという共通認識があった。考える会では多様な意見でまとまらなかったが、本来の認識に立ち返り、保護者の意識調査を経て事務局として方針案を策定し、1～2月の教育委員会会議に議案として上程させていただきたいと考えている。

奥村教育長

当初から一貫して変わらないのは、「子供の利益、保護者の思いを尊重する」ところであり、今後も教育委員会事務局はそこを根本として進めていく。様々な子供のニーズに合った居場所づくりがこれからの教育現場には求められていくと思う。ほかにいかがか。

川口委員

先ほどは、浮島中学校区の視察の件で、プラスの部分を取り取ってお話したが、重光委員の話聞いて思い出したことがある。浮島小学校では、小学校4年生のみ2クラスだが、あとは全て1クラスであった。中学校3年生はクラス替えなしの同じメンバーで9年間を過ごしていることになる。そのためか、とにかく性別関係なしに無条件に男女の仲が良かった。先生方とも、「とても仲が良いが、このメンバーの中に居られなくなったらもう居場所がなくなってしまう」という話もした。小規模校の宿命のような一面も感じられた。

奥村教育長

小学校の子供たちがそのまま同じ地区の中学校に上がるケースもあれば、中には市立高校中等部や私立中学校を受験するといった場合もある。私が浮島中学校に校長として在籍していた当時も、実際、進学したのちに、人間関係を再構築することへの悩み相談があった。単学級であるがゆえに、学校に来にくくなってしまいうことがないよう、全員が来られるような学校づくりに、当時の小学

校の校長とも連携して努めていた。ほかにいかがか。なければ、本件については報告を受けたということで御了承願う。

報告事項3 教育基本構想実施計画の取組の状況について

＜平成18年の教育基本法改正により、地方公共団体の教育行政の基本計画を定めることが努力義務となったことから、本市では、平成21年に「沼津市教育基本構想」を策定し、平成27年には当時の社会状況等を踏まえて改訂した。その後、「第5次沼津市総合計画」策定に併せて令和3年3月に「沼津市教育基本構想」を策定した。この構想が令和7年度末をもって期間終了となることから、教育基本構想に基づき作成した「沼津市教育基本構想実施計画」の令和6年度上半期までの進捗状況の概略や今後の取組について報告する。＞
(教育企画課長 資料に基づき説明)

奥村教育長 説明が終わった。教育委員の皆様にも毎年、事務点検評価に目をとおしていただき、進捗状況について見ていただいているところである。御存知のように、世の中が激しく変化しており、見通しもなかなか立たないような状況である。教育界においても生成AIの登場等、5年前には予想もできないようなことが起きている。すでにこの教育基本構想実施計画を立てた当初からも状況は変わってきているが、それぞれの事業がおおむね達成できたとする「評価B」以上であることも踏まえ、また新たな目標を見据えて次期教育基本構想への策定に入っていく。御意見、御質問等いかがか。
この後行われる協議会においても、本件に関連する事項を取り上げる。ほかになければ、本件については報告を受けたということで御了承願う。

報告事項4 第41回沼津市山口源新人賞の決定について

＜本市ゆかりの版画家である山口源を顕彰し、将来有望な版画家に授与している沼津市山口源新人賞の審査が行われ、王敬昇さんの「欄干会大壁画－6」が受賞作品に決定したことについて報告する。＞
(文化振興課長 資料に基づき説明)

奥村教育長 説明が終わった。私も文化振興課長と共に、東京都美術館に作品を見に行った。山口源新人賞は、若手版画家の登竜門と言われるように、一昨年受賞した方が、昨年の日本版画協会賞を受賞した。ほかにも新人賞をとった方々によるその後の活躍が多く見られている。ぜひとも、沼津市の文化芸術に際してワークショップ等の企画の折には、こうした受賞者の方々にお越しいただきたいと思っている。今回の作品が沼津市にやってきた際には、実際に皆様にも御覧いただきたい。また、今回の王敬昇さんも留学生であるが、外国の方々の日本の文化芸術に対する関心度は非常に高く、日本への留学の補助など国をあげて力を注いでいる。東京都美術館にも、外国の方々が親子連れで鑑賞する様子が見られた。先日、MOA作品展に行った際にも、外国の方々は見られ、文化芸術に対する関心度が高いと思った。
特になければ、本件については報告を受けたということで御了承願う。

<その他>

奥村教育長 日程（８）その他である。
何かあるか。なければ、残る日程は非公開とする。

報告事項５は人事案件であるため非公開とした。
報告事項６については非公開情報が含まれるため、当日は非公開としたが、本会の質疑応答内に非公開情報は含まれなかったため、公開する。

<報告>

奥村教育長 日程（９）報告事項である。

報告事項６ 令和６年度全国学力・学習状況調査について

<令和６年４月１８日に全国の小学校６年生、中学校３年生を対象に行われた全国学力・学習状況調査について検証改善委員会を２回実施し、沼津市の分析結果と今後の授業改善に生かすための取組をまとめたので報告する。すでに分析結果の資料を各校に送付しており、全職員が資料を活用して子供の実態を把握し、授業改善を図るよう市教委で働きかけを行っていく。保護者には、結果を伝えるための家庭用リーフレットを配布予定。教職員へは、今年度の成果と課題への対策を踏まえたメッセージを動画にまとめ、配信する予定であるため、有効活用するよう投げかけていく。>

(教職員研修センター所長 資料に基づき説明)

奥村教育長 国語、算数・数学、ウェルビーイング、家庭教育、ICTといった項目それぞれについて、良い点と課題を挙げている。毎年全国と比較すると、小学校において低く、中学校になると正答率が上がっていくことが話題にのぼる。本件に関する御意見、御感想はいかがか。

佐藤委員 ICT機器の活用について。静浦小中一貫校に視察に行った際に、習字の授業を見させてもらった。従来であれば、先生の手元が見える位置まで移動して、「とめ」や「はね」の位置を見ていたことと思うが、子供たち一人一人が持っているタブレットに先生の手元がはっきりと映っていたので、こういった使い方があるのかと感心した。先日行った浮島小学校では、算数の授業においてタブレットを使用していた。数のまとまりの学習で、ある児童が黒板に解答を示すと、ほかの児童の手元のタブレットにそれが映し出されていたが、たまたま目についた児童は、正解を理解していないような状況であった。ICTを使うことで理解が深まっている場合もあれば、目に見えないところでは取りこぼされている場合もあるかもしれないと思った。これは、あくまでも個人的な感想である。

奥村教育長 私は、ウェルビーイングに関する質問紙の調査結果、「安心して過ごせる環境をつくり、子供のウェルビーイング向上へ」という項目のうち、「人の役に立つ人間になりたいと思う」「人が困っているときは、進んで助けている」と回答した割合が９割を超え、沼津市の子供の良さではないかという分析結果が出たことを嬉しく思った。他者を思いやる姿勢を認め、誰かの役に立てたという経験を

重光委員

積み重ね、自己有用感や自己肯定感を高めること、それがウェルビーイングにつながると思う。「貴き志を持つ人づくり」を目指す沼津市として、これからも頑張っていこうという気持ちになった。また、子供のウェルビーイングを高めるためには、教員側のウェルビーイングも高めていく必要があると考えている。全国平均と比較するという話は、よく考えられることとは思いますが、年代別で各分野の理解力がわかる統計があってもよいかと思う。私は、近年、子供の言語能力が低下していると感じている。その要因は、おそらく親がスマートフォンを操作する等、子供との会話の時間が減少しているからではないかと推測している。親との会話が日常的に少ないと、子供の言語能力は発達しにくいのではないかと考えている。共働きの家庭も増える現代で、そうした親子の会話の機会が減り、子供の言語能力が低下することを危惧することがある。人と会話する際に、自分の気持ちがうまく伝えられないのは、会話の機会そのものが減っていることが要因である気がしてならない。また、質問紙にある「将来の夢や希望を持っている」という項目が全国的に見ても、小学校から中学校に進学するにつれて数値が一気に低下している。3人に1人が、夢や目標がない状態だと思えば、社会の閉塞感が表れているなど実感する。年によって、子供たちの年代別の意識も変遷をたどっているのではないか。

奥村教育長

小学校6年生の結果を中学校3年生に確認し、経年変化をたどれるような統計の取り方はされているが、近年の傾向として、人との会話の機会は減り、メディアから一方的な情報が入り続けるような感じがある。受け身の姿勢が多く、人との関わり合いの体験が確実に少なくなってきた。働き方改革も含め、小学校の教科担任制のような試みもある。メリットとしては、教員側の教材研究の時間短縮、より専門的で魅力的な授業展開となるといったことがある。これは文部科学省も推奨している。そうした試みに対して、今後どういう影響が出てくるのか注視していきたいと思う。毎年毎年、同じような課題にぶつかっていると見受けられる部分もあるが、教員側がこの結果を自分事として受け止めて、授業内容に反映していくことが大切だと考えている。教職員研修センターにおいては、そうした部分への働きかけも併せてお願いしたい。

ほかにかがが。なければ、本件については報告を受けたということで御了承願う。

ほかになければ、本日の定例会を終了する。

午後4時43分 閉会